



素晴らしい仕事をして  
いるし、使ってもらって  
よかったなと思います

### マレットファンの 事務所のオーナー クワンさん

作家でもあり、事業者でもあるクワンさんはマレットファンの事務所のオーナー。今の場所に拠点を構えてからマレットファンの活躍の場はどんどん広がっています。マレットファンとの出会いについてクワンさんにお聞きしました。



「その日はバンコクの中心部で開催されていた講習会に参加していて、休憩時間に外に出たら、何かのチラシを机の上に並べている人がいたんです。何かしら?とって話しかけてみました。それがギップさんだったんですよ。」

出会いとはあるとき突然やってくるもの。その後、二人の会話は続きます。「あなたはここで何をしているの?」「私たちはマレットファンと言います。今日は別会場で布を使っておもちゃを作るワークショップをやっているんです」「マレットファンってどんなことをしているの?」「子どもたちのために本を読んだりおもちゃを作ったり、いろんな活動をしているんです」「どこにあるの?」「それが、今ちょうど事務所を探しているところなんです」「あら。じゃ、うちが空いているから使っていいわよ。」

ギップさんから「事務所を貸してくれるという親切な人がいる」と聞いた久美さんもムアイさんも最初は信じられない思いだったそうです。その後改めて3人はクワンさんとお会いすることになり、建物を案内してもらおうと、事務所スペースもあり、ワークショ

ップができそうな広々としたスペースもあり、大きな倉庫もあって、マレットファンがこれから活動を広げていくには理想的な場所。「お金はないんですけど大丈夫ですか?」とたずねると、「水道代と電気代だけでいいわよ」。なんとまあ。トントン拍子に話がまとまって、マレットファンの新天地での活動が始まりました。

ところで、お金もないという見知らぬ人たちに部屋を貸す不安はなかったのでしょうか。クワンさんは笑顔で言います。「会ってみたら3人のかわいい女性たちでしょ。一目見て信頼できました。ときどきここで開催しているえほん展などをのぞかせてもらっていますが、彼女たちは素晴らしい仕事をしているし、ここを使ってもらってとてもよかったと思ってますよ。」

自分は建物を持っているだけと話すクワンさん。経営する出版社も他へ引越して空き家になっていました。「誰も使わないのももったいないし、社会的に良い活動をしている人たちに使ってもらえるなら喜んで」というクワンさん。マレットファンを温かく見守る人がここにもいました。



クワンさんの著書の数々



エッセイと旅の写真を織り交ぜたきれいな一冊

クワンさんのマレットファン  
(夢のたね) は?

What's your "Maletfan"?

作家として本を書く時のテーマは「しあわせになるためには」ということ。著書は自分の経験を踏まえて易しく書いたものばかりです。たくさんの方が本を読んでしあわせな人生を送るきっかけになったらと願っています。